

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	おきなわみんぞくげいのう
6-9	<b>沖縄民俗芸能</b>

エリア	中央地区	シーズン	通年・秋
	富士見・中島	日時	10月

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

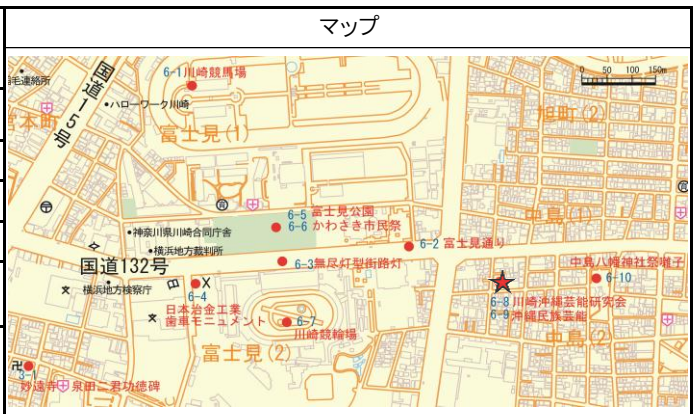
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



石敢當 (JR川崎駅東口)

写真提供：川崎沖縄芸能研究会

所在地	川崎区中島2-3-3 (沖縄労働文化会館内)
問い合わせ	川崎沖縄芸能研究会
TEL	044-233-8584
FAX	044-233-5464
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「中島交番前」下車徒歩2分



### 基礎情報

■昭和25年(1950)に発足した「川崎沖縄芸能研究会」によって次世代に受け継ごうと精力的に演奏活動を続けている沖縄の民俗芸能。昭和29年(1954)に神奈川県の無形文化財(昭和51年には重要無形民俗文化財)に指定された。川崎の沖縄芸能は古典芸能の精神をくんで、荘厳な踊りから軽快な踊りまでバラエティーに富んだ舞踊や民謡をはじめとする沖縄芸能を代表するほとんどのものが今に伝えられている。色鮮やかな衣装も沖縄民俗芸能の特色である。

### 由来・エピソード

■沖縄民俗芸能には、琉球王朝を発祥の源とする決まった型と伝統を重んじる「古典芸能」と、王朝芸能に飽きた庶民達により培われてきた自由奔放で型にはまらない「創作芸能」の大きく二つの流れを有するという。

■古典芸能には古くからの郷土色豊かな神事舞踊や島々の民俗舞踊、能や歌舞伎唄がとり入れられている。劇的な内容をもつ個々の踊りを組み合わせ「組踊り」や、老人姿の演者による荘重な「老人踊」、恋人を慕いながら布を織る女性を表現する艶やかな「女踊」、鉢巻に黒紋付きの着物を着て踊るテンポの早い「二才踊(にせおどり)」、若衆姿による美しい「若衆踊」、海辺の男たちがとった魚を町へ売り歩く娘たちの風俗を描いた軽快な「雑踊(ぞうおどり)」などがあり、これらの踊りには三線(さんしん)・太鼓・琴・笛などの楽器を用いた独特な音楽の伴奏が奏でられ、舞姿の美しさと独特な舞の型がいつそうの魅力を高めている。

■川崎出身の有名な詩人・歌謡曲作家である佐藤惣之助は、酒と釣りと旅もまたこよなく愛したという。大正11年(1922)、31歳で初めて沖縄の旅へと赴く。沖縄本島を馬車で巡り、慶良間諸島で巫女之家に滞在した。旅の成果は、詩集『琉球諸島風物詩集』『颯風の眼』などに結実し、伊波南哲など沖縄出身の詩人が惣之助主宰の「詩の家」に入りし親交を深めたという。そして昭和元年(1926)、富士瓦斯紡績工場で働く女子工員などが中心となって沖縄芸能大会が催されることを知った惣之助は、会場に激励に駆けつけ主催者一同大いに感激したという。

■昭和29年(1954)の神奈川県の無形文化財指定の際、他県由来の伝統芸能の指定に尽力したのが当時市教育委員会に在職していた古江亮仁氏(故人)であった。翌昭和30年(1955)、「佐藤惣之助の詩碑」建立の話が進められた時に、偶然にも惣之助の沖縄への深い愛情をはじめて知った古江氏は、驚きと深い感銘を受ける。すぐに川崎市民の名で惣之助の詩碑を沖縄に贈呈建立することを発案した。現在、惣之助がかつて漁船で巡った島々を遙かに望む那覇市虎瀬公園には、琉球諸島風物詩集の中の一編『宵夏』の詩碑が建っている。

### 補足・その他

■昭和35年(1960)、宮古台風災害に対して川崎市議会が超党派で中心になり、全市で災害救援金の募金活動が行われた。その御礼として当時の琉球政府から贈られた記念碑「石敢當(いしがんとう)」が川崎駅東口駅前広場内に立つ。石敢當とは古代中国の力士の名で、この3字を刻んだ碑を建てて厄除けとする慣習が琉球地方で伝承されている。

### 関連シート

(6-8)川崎沖縄芸能研究会  
(29-5)沖縄料理  
(32-4)佐藤惣之助